

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実 施 事 業	<b>事務事業名</b> スクールカウンセラー活動経費
----------------------	-----------------------------

区分	番号	名 称						
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち						
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む						
施策	1	子どもたちの生きる力を育む						
小分類	2	豊かな人間性の育成						
主要な施策	3	教育相談の充実						
事務事業番号	001	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td style="background-color: #e91e63; color: white;">事務事業コード</td> <td>52123001</td> <td style="background-color: #e91e63; color: white;">事業開始年度</td> <td>平成 8 年度</td> <td style="background-color: #e91e63; color: white;">事業終了年度</td> <td>平成 - 年度</td> </tr> </table>	事務事業コード	52123001	事業開始年度	平成 8 年度	事業終了年度	平成 - 年度
事務事業コード	52123001	事業開始年度	平成 8 年度	事業終了年度	平成 - 年度			

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	スクールカウンセラー活用事業費
------	------	------------	-----------------

部 名	教育部	グループ名	学校教育 G
-----	-----	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> 小中学校における、不登校やいじめ等、児童・生徒の問題行動に対応するため、専門的な知識、経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、カウンセリングの機能充実を図る。
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> 拠点校（西陵中学校・緑陽中学校）に配置し、必要に応じ市内各小中学校のカウンセリングに対応している。 スクールカウンセラーの勤務形態は、原則として年35週、週当たりの勤務時間は8時間以上12時間以内。
成果	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> 児童・生徒の臨床心理に関するカウンセリング体制の充実
根拠法令等	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> スクールカウンセラー活用事業実施要項

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実 績	23年度 目 標	24年度 目 標	25年度 目 標	26年度 目 標
成果 指標	相談件数	件	目標値	150	150	150	150	150
			実績値	321	/	/	/	/
			目標値					
			実績値		/	/	/	/

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	252	93	93	93	93	279
合 計				252	93	93	93	93	279
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	133	136			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		133	136			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 本事業は、北海道教育委員会が行なっているスクールカウンセラー活用事業を活用したものであり、市が事業を実施することは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ スクールカウンセラーの助言に基づき、学校の枠組みを超えた取組も行なっている。専門的知識を有するスクールカウンセラーの配置は、児童生徒だけでなく教職員、保護者にも安心感を与えている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 事業の継続により、児童・生徒のカウンセリング体制の整備が図られる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 今後も、児童・生徒が抱える問題の多様化、複雑化により相談件数の増加が予想されることから、カウンセリングの時間確保のために予算は削減できない。

担当グループによる評価

<b>維持</b>	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	学校生活において児童生徒が抱える様々な悩みや不安は、いじめ、不登校にもつながりやすく、気軽に相談できる体制を整えることは重要である。 また、児童生徒の問題行動等は複雑・多岐にわたり、専門的な知識を有するスクールカウンセラーの配置は、教職員、保護者にとっても必要なことである。
-----------	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

<b>維持</b>	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）